

# 令和3年度 第6回・研究授業 4年2組 社会

日 時：令和3年12月15日（水） 13：45－14：30

場 所：4年2組教室

指導者：4年2組・担任 E. S.教諭

単元名：自然災害から人々を守る「水害からくらしを守る」

講 師：本校前校長 金谷 政一先生

【導入】前時の振り返り



この前の時間に、墨田区は水害の起こりやすいところだという学習をしました。水害が起こると、実際どんなことになると思いますか？

「家が壊れる」

「水浸しになる」

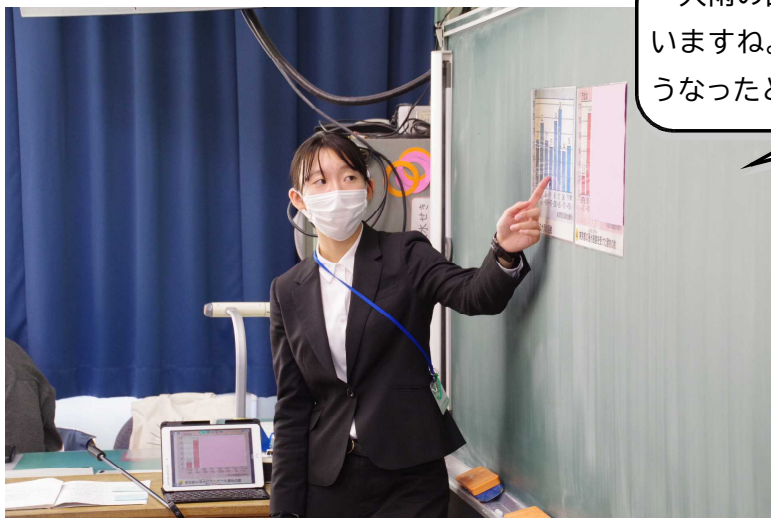
「被害は何年後にも影響する」

それでは、昔の水害の様子を見てみましょう。



実際の被害の様子を見て、想像する。

【展開】二つのグラフを見て、大雨の発生回数は多いが、浸水被害は減少傾向にあることに気付かせる。



大雨の回数は増えたり減ったりしていますね。それでは、浸水の被害はどうなったと思いますか？



そこのメモリが11.0とあるので、それより上に行くことはないので、少なくなると思います。



少なくなると思います。理由は、昔の家は木でできていたけれど、だんだん素材が変わってきているので、被害が少なくてすむようになったと思うからです。



浸水の被害は、減っていると思う人？

それでは、近くの人とこの二つのグラフについて考えられることについて話し合ってみてください。疑問に感じる場所はどんなことですか。

【シンキング・サイクル：整理・分析】



なんで、大雨の回数は増えたりしているのに、水害はあんなに減っているんだろう？

疑問に思ったのは、大雨の回数は変わらないのに、水害の件数があんなにへったことです。



理由は、スーパー堤防ができたからだと思います。



それでは、みんなの疑問について一緒に考えてみましょう。

【シンキング・サイクル：課題設定】



今日のめあて「水害の被害を減らすために、どのような取組をしたのか考えよう」

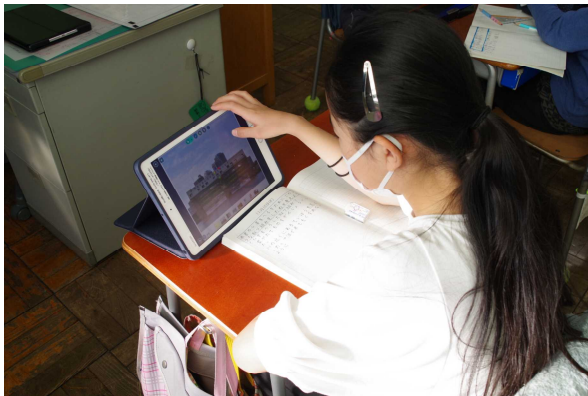


【シンキング・サイクル：情報の収集】【シンキング・サイクル：整理・分析】

1) 自分で取組について考える

2) 資料の提示

スーパー堤防の写真、水門の写真、地下調節池の写真、河道整備の写真、貯水池の写真、ポンプ場の写真、ハザードマップ



3) 資料をもとに班で話し合う



水門は、川の水の量を調整するものだから、流す量を変えられるのでは？

水があふれないようにためておく場所を作ってあるんじゃないかな？



4) 全員で共有し、確認

大きな穴を掘って、水があふれてしまわないように水をためておけるようにした。



川があふれるのを防ぐために、その、土地を高くした。坂をつくって、高くした。(川の土手を高くした。)

川の幅を広くして、水が多く流れるようにしている。そうすると、水をたくさん流せるようになるから。



【シンキング・サイクル：  
まとめ・表現】



これって、みんな同じ人たちがやっているんですか？  
では、次の時間は、水害から暮らしを守るために、誰がどのような取組をしているのか、考えていきましょう。



【授業後：講師の金谷先生から学習のヒントについてお話】

私が幼稚園生の頃、雨がすごく降って早く帰ってきました。家の2階でお昼寝していたら、マイクの音が聞こえてきました。「早く逃げてください！」って。雨戸を開けたら…。何と、目の前に船が通っているんです。2階なのに！ 天井を破って屋根に逃げました。



【研究協議】 本日の協議会で学びたいことは…

- 主体性を引き出す資料の使い方
- 社会科の授業の流れ
- 学習問題づくりの方法
- 子供の発言の深め方 など

《分科会より》

- 調べたりまとめたりする中で、新たな課題を見いだしていく児童を育成したい。
- 社会の事象を自分事と捉え、既習事項とあわせて考えることができる児童にしたい。



## 《授業者自評》

- 資料の使い方はどうだったか。資料は墨田区のものを使いたかった。
- 交流しているとき、意見の「共有」までで止まってしまう。話し合いの視点をもっと明確に。
- 子供たちの実体験のなさをどう補うことができるか。



## 【指導・講評】

講師・本校前校長 金谷政一先生

### 《今日の授業では…》

- 子供たちは、先生の意図をくみ取って、よく考えていた。
- 子供の話とうまく拾うと良い。資料は、2枚だけでも良かった。
- 既習事項 4年の社会では「私たちの生活はまわりの人に支えられている」  
→社会科は「人」が出てこないダメ！ 消防、警察、区・都・国、自衛隊 etc.
- 用語をしっかり確認。「洪水」「浸水」などの違いは理解できているのか？

### 《社会科の授業とシンキングサイクルの関係》

- 最近の社会科の考え方では「つかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」
- 小単元を一つの課題でシンキングサイクルを回す。

○指導内容があるので、児童の発問だけでは不十分なときがある。その時は「方向付ける」(制御する)

○提示する資料には、種や仕掛けがなければならない。

○みんなで考えるために必要な、共通基盤としての知識は先に与えてしまうと良い。

